

【彙報】

① 展示会・講演会開催報告

高松展示会・講演会

高松展示会・講演会「明治、大正、昭和に上海にあった日本の大学『東亜同文書院』」を10月12日(土)～10月14日(月・祝)に、JR高松駅前のサンポートホール高松にて開催しました。展示会では愛知大学記念館にあるコレクションの展示、講演会は『東亜同文書院』に係る内容を紹介しました。

この展示会・講演会は、2006年の横浜での開催を皮切りに、東京、弘前、福岡、アメリカ・シカゴ、神戸、京都、米沢、名古屋、富山、沖縄、長崎、岐阜、広島、松本、名古屋、浜松、岡崎に続く、19回目の開催で、四国地方では初めての開催となりました。

東亜同文書院は、20世紀前半期の1901年、東亜同文会(会長:近衛篤磨公)が、アジアの発展のために、日本と中国を繋ぐ教育機関「東亜同文書院(以下、書院)」として中国上海に設立。終戦により45年間で閉校しましたが、書院最後の学長本間喜一が、1946年愛知県豊橋に「愛知大学」を設立しました。書院生5,000名の『学籍簿』『成績簿』は愛知大学にて保管しています。講演会では、この概要を深く掘り下げ、石田卓生愛知大学非常勤講師が「東亜同文書院と上海」を、藤田名誉教授が「日本初のビジネススクールとして誕生し、発展した東亜同文書院」と題して講演しました。また、田辺豊橋研究支援課長が、大学記念館のドローン撮影ビデオの放映と、「東亜同文書院から愛知大学」に関する紹介をしました。

今回の催しには、同窓会香川支部長堀田様、岡山支部事務局長有森様、高松市議会副議長十川様ほか多くのOBの方々のご尽力により、台風19号の影響下にもかかわらず、156名の来場者があり、親子、3世代、外国人のご家族など多彩な方々がお越しになりました。

また、来場者のなかには、東亜同文書院卒業生の妹さま、息子様ご夫妻の2組の関係者の方の来場もあり、近衛文麿東亜同文書院院長押印の昭和5(1930)年3月2日に受領された卒業証書、当時のアルバム関連資料等を寄贈いただきました。

【展示会感想】

- ・東亜同文書院と孫文や蒋介石との関係がある事も判って良かったです。
- ・東亜同文書院が展示のメインになるのは当然だが愛知大学現状と将来の展望がどうなっているか知りたい。
- ・母親が明治43期生であり父親が昭和19年に戦死して戦後苦しみながら生きぬいてきた。今年は令和の時代となり今までの歴史を考えつつ「子供、孫達に明るい人生を」と願い、考えさせられました。ありがとうございました。
- ・私の叔父が東亜同文書院の上海で学生であったことを自宅に残っていた写真を見ながら父が説明していたのが来場のきっかけです。私自身は学生時代に中東洋史を学びました。その頃に国語翻訳のために愛知大学の中日大辞典をよく使っていました。色あせた現物が今でも本棚にあります。色々とつながりを想いながら展示をみせてもらいました。ありがとうございました。

【講演会感想】

- ・ 東亜同文書院から愛知大学への史的流れが十分理解することができた。
- ・ 豊橋キャンパスの最新の映像を見て懐かしく感じます。愛知大学にこのような歴史があったことを学生の頃に知らなかったのが残念です。
- ・ 東亜同文書院の設立から愛知大学設立に至る時代背景をグローバルな視点から説明いただいて良く理解できた。
- ・ 東亜同文書院の設置（設立）目的や当時の上海の様子が理解できた。
- ・ 当時の画像も織り混ぜながら各種エピソードも分かりやすく興味深いお話を伺うことが出来た。
- ・ 東亜同文書院の果たした教育的役割がよく理解できた。
- ・ 戦前戦中そして戦後に亘る書院と中国との関わり、そして国内事情との関係を分かりやすく説明して下さいました。
- ・ 東亜同文書院の生い立ちが良く判り、そのグローバル性で戦後の日本を支える一端を担っていた事も良く判りました。
- ・ 東亜同文書院については、これまで存在を知らなかったが、中国と日本の関係の一面を知ることができた。

